

ピンとくるのはどちら？

- A. 日本でのスマートフォンの保有状況は、**非常に多い**。
- B. 日本でのスマートフォンの保有状況は、個人の保有割合が **78.9%** である。
(令和5年通信利用動向調査 総務省情報流通行政局)

あいまい／
多過ぎてどのくらい？

明確／
誰が見ても同じ

数値データ（統計情報）を使うことで、主張がより明確となり、信頼性が高められ、説得力のある文章となります。
数値データは、レポート・卒論の裏づけとなる強い味方です。次のポイントを踏まえ、効果的に使ってください。

- ☒ 誰がいつ行った調査か ☒ 誰を対象にした調査か
☒ どういう手法で調査が行われたか ☒ 調査結果はどのような内容か など

統計情報はどこで探すの？

官公庁のウェブサイト

政府機関や地方自治体では、さまざまな統計情報を提供しています。例えば文部科学省では、所管業務である「学校教育」「社会教育」「体育・スポーツ」「科学技術」などに関する各種統計調査が公開されています。

政府統計の総合窓口（e-Stat）（右ページ参照）

調べたいテーマの所管省庁がわからない場合は、政府統計の総合窓口 e-Stat (<https://www.e-stat.go.jp/>) から各種統計を検索できます。はじめに紹介したスマートフォンの保有割合の例では、「情報通信」などのキーワードで知りたいデータを探すことができました。ただし、キーワード検索は万能ではないため、欲しい情報のキーワードは工夫する必要があります。（詳細は p.10 参照）

白書や調査報告書（本）

白書は、政治・社会・経済などの実態及び政府の施策の現状について国民に紹介することを目的として、中央省庁が刊行する刊行物です。地方公共団体においても発行する例が見られます。白書や調査報告書は本として出版されているので、「GLIM/OPAC」などから図書館の所蔵を調べることができます。また、各官公庁のウェブサイトで公開されているものもあり、インターネットで見えることもできます。

民間の調査団体の統計調査

省庁や地方公共団体だけではなく、民間団体等の調査にも有用なものが多くあります。新聞や雑誌では、民間団体の調査も紹介されています。どんな統計があるのか調べるためには、国立国会図書館の「リサーチ・ナビ（右ページ参照 <https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi>）」や『ビジネスデータ検索事典（日本能率協会，2012）』など、発行団体を問わず統計を分野別等にまとめているツールが便利です。

COLUMN

どんな白書があるの？

『文部科学白書』『経済財政白書』『警察白書』『観光白書』などがあります。
学内で冊子版白書を探していて名前が分からないときは、「GLIM/OPAC」のキーワード検索で中央省庁の名前△白書 と入力してみるといいでしょう。（例：警察庁 白書）

インターネットで公開されている白書は e-Gov（イーガブ） ウェブサイト内の「白書等」
<https://www.e-gov.go.jp/about-government/white-papers.html> にまとめられていて便利です。

<政府統計の総合窓口（e-Stat）>



<国立国会図書館リサーチ・ナビ>



出典：リサーチ・ナビ (<https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi>)